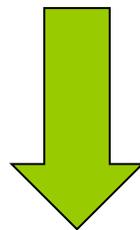


全体所感

(調査結果①～⑩を踏まえて)

欧州の資源循環の取組みは先進的と思われる。たしかに動き出しが早く、インパクトがある政策を打ち出している。



現地を調査すると・・・

取組みがすべてうまくいっているわけではない。

- ✓ 廃棄物を資源として循環させるための情報がない、失敗している取組みもあるかもしれない。
- ✓ 革新的な技術、システムでも、試行錯誤しながら徐々に効果を上げている。
- ✓ 欧州委員会の政策と欧州各国の対応・調整は非常に難しい。(関係機関、関係者が日本より多い?)

欧州、日本、世界全体で目指すところは同じ
“2050年カーボンニュートラル”

世界各国、各機関、各事業所・部門で知恵を出し合って目標達成に向かう。
日本(アジア)の取組みも海外で参考になるかも・・・

- ✓ 法律で廃棄物情報のプラットフォームが構築されている(電子マニフェスト)
- ✓ 建設廃棄物の高いリサイクル率(工事現場での分別の徹底)

廃棄物処理、リサイクルに関する欧州、日本の共通の課題

- ✓ リサイクル技術を追求しても限界がある。製品製造段階で、リユース、リサイクル可能な設計が必要である。
- ✓ 廃棄物の分別、回収方法にも課題がある。リサイクルシステムに合わせた分別方法と周知・徹底が必要である。

廃棄物情報に関する学び・課題

- ✓ 情報を活用するためには、正確な情報を入力することが重要である。
- ✓ 関係者がどのような情報を共有できるかが課題である。(個人情報保護の関係で共有できる情報、できない情報がある)

オランダの建設・解体廃棄物の特徴

オランダの建設・解体廃棄物は、建設混合廃棄物の状態のものが多かった。なぜか???



- **オランダは地震がない！！**
建物は**100年経っても価値が落ちない！！**
家が斜めでも倒壊しないから大丈夫！？
- オランダでは、古い建物の外観を変えることができない。したがって建物内のリフォームが多い。
- 住宅敷地内に分別用のコンテナをいくつも並べるスペースがなく、コンテナにリフォームで発生する廃棄物が混載される。

